

「グリーンイノベーション基金事業
「再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造」プロジェクトに関する
研究開発・社会実装計画（改定案）に対する意見公募」の結果について

令和 5 年 8 月 2 2 日
経済産業省資源エネルギー庁
省エネルギー・新エネルギー部
水素・アンモニア課

1. 意見・情報の募集の実施状況
 - ・実施機関：令和 5 年 7 月 7 日から令和 5 年 8 月 6 日まで
 - ・実施方法：電子政府の総合窓口（e-Gov）における掲載
 - ・意見提出方法：e-Gov
2. 提出意見：2 件
3. 提出されたご意見の概要及びご意見に対する考え方別紙のとおり。

御協力いただき、誠にありがとうございました。

御意見及びそれに対する考え方

御意見	御意見に対する考え方
<p>p.3の脚注1の説明で本年とあるが、脚注1は2021年開催の資料なので、間違いである。また2023年度改訂版なのに、過去の年度(2021年度など)の予定のような表現が残っていておかしい。</p> <p>ついでながら、7月18日付でパブコメのHPで訂正の案内を備考欄に載せているが、その指摘をした者である。前のHPで改定案としながら提示された資料は令和3年5月18日の日付の付いた資料しかなく、しかも「改訂版」の文字もなかったため、改定前のものが提示されていたと思わざるを得なかったのである。とても改定案とは思えない表記になっていたため、指摘させていただいた次第である。私の印象では、備考の説明とは違う気がしている。なお、訂正版を見ても、上記の例や、あるいは2021年の話が何箇所かに出ていて、継続事業もあると思うが2022年度までの結果や成果などにも触れて2023年以降の予定等の議論をするべきと思った。いろいろ合わせ、準備不足の感が否めないことは指摘しておく必要を感じた。</p> <p>脚注1の「中間整理」の中身を見ると、シート7の“カーボンニュートラル時代の水素等の位置づけ”で、「非化石電源+水電解」と「化石燃料+CCUS」が並列で記述されており、カーボンニュートラルを目指す際に、明らかに性質の違うものを並列にした中間整理の内容を根拠としている今回の「グリーンイノベーション基金事業」には反対である。同資料のシート8の参考でも、2050年時点で“火力+CCUS/カーボンリサイクル”と原子力で30～40%とされているが、電力分野でのCCUS利用も原子力利用も環境に関わる問題を多く抱えおり、ど</p>	<p>貴重な御意見ありがとうございます。脚注1は「本年」から「2021年」に修正いたします。</p> <p>社会実装計画改訂版の表紙はご指摘を踏まえて7月18日に差替えており、変更箇所と理由を含め、HP上にも公開しております。また、本計画の改訂にあたっては、その必要性等を十分に検討し、準備を進めてまいりました。</p> <p>また、ご指摘の「化石燃料+CCUS」につきましては、ご認識のとおり、化石燃料を改質すること等により水素を製造し、発生したCO2はCCUSにより埋設することや再利用を検討しています。これは、水素・アンモニアが多様なエネルギー源から製造することが可能であるためエネルギー安全保障の強化にも寄与することも踏まえ、様々な方法を模索して政策を進めてまいります。他方で、「非化石電源+水電解」についても、ご指摘のとおり、重要であることから、水素社会の実現に向け政策を進めてまいります。</p>

<p>んなに遅くとも 2050 年時点にはゼロになっているべきである。</p> <p><説明> 化石燃料から水素を製造する場合は、CO₂ も発生するため、CCUS と称して埋設や再利用を検討しているが、そこでの埋設量や再利用にも限界（量的な問題として）があり、いつまでも利用できる技術とは思われない。それと比べ、「非化石電源＋水電解」の技術はいつまでも積極的に利用されつづけると考えられ、支援・投資する価値は格段に高い。今回の計画案の中心は書かれている内容から「非化石電源＋水電解」であると分かるが、「非化石電源＋水電解」と「化石燃料＋CCUS」が並列で記述された時の議論から出発して提出された計画のようなので、「非化石電源＋水電解」の技術のより確実な開発と発展を期すため、「化石燃料＋CCUS」への支援は早めに終わりにするなど、あいまいさをなくした明確な決断が改定案には強く求められなければならない。それなのにそのようなことがどこにも何も触れられていないことは大変な問題であると指摘しておく。</p>	
<p>再エネ由来の電力を使った水電解での水素製造は、相当無駄なエネルギーを使いそうですが、これに大金投資する価値があるんでしょうか？トータルでのエネルギー消費もきちんと計算されているんでしょうか？</p>	<p>水素は、製造時に余剰の再生可能エネルギーを活用して水素に変換・貯蔵することで調整力の役割を果たすほか、水素は電化が困難な熱利用や炭素原料の置換など、CO₂ 排出削減が困難な領域における脱炭素手段となることから、エネルギー消費全体に鑑みても有力な脱炭素化手法の一つとなりえます。</p> <p>今後のカーボンニュートラルの実現に向けては、御指摘の点も踏まえながら、あらゆる選択肢を検討してまいります。</p>